

はじめに

6月18日の朝8時ごろ、大阪府北部で最大震度6弱の地震が発生した。地震の規模はM6.1、震源深さは約13kmと推定されているが、詳しいことはまだ判っていない。地震当日の東京新聞夕刊には『あまり発生ない場所』と題する気象庁のコメントが掲載されていたが、周囲を断層帯で囲まれた地域で発生したことから大変気になる地震である。地震規模の割に被害が大きい理由の第一は、周囲を硬い岩盤で取り囲まれた大阪平野(本当は大阪盆地というべきであろうが)の地形地質にあるものと考えられる。すなわち、大阪盆地端部の、なおかつ淀川沿いの低地に位置する高槻・茨木・枚方などで地震動が強く現れたのは、被災者の方々には本当に気の毒なのであるが、宿命としか言いようがない。1995年の兵庫県南部地震の後、上町断層の存在なども注目され、大阪地域の地震対策を強化しようとの動きがあっただけに、地元の行政におかれては、今回の地震災害を深刻に受け止めて戴きたい。なお、末尾サイトの「東日本大震災以後の備忘録ないしは切り抜き帳」に関連記事を掲載しているのでご参照願いたい。

<http://sismosocial.web.fc2.com/>

震度分布と震源の情報



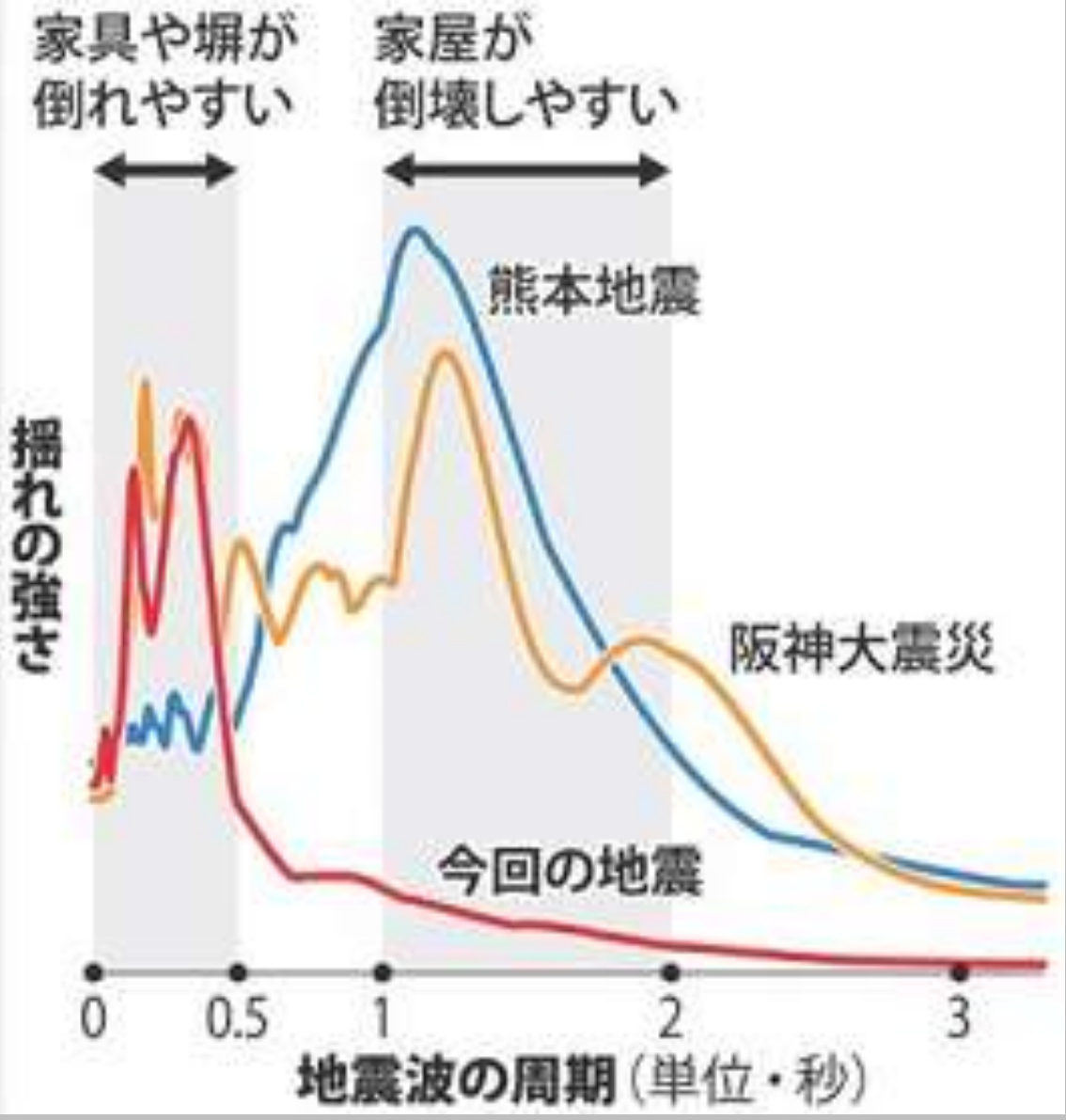
気象庁による震度分布 (最大震度 6 弱)



ウェザーニュースによる震源と周辺の断層帯との関係

当日の夕刊トップに報じられた気象庁による震源情報は、発震時：18日午前7時58分ごろ、最大震度：大阪市北区、高槻市、枚方市、茨木市、箕面市で6弱、震源地は大阪府北部でマグニチュード (M) 6.1、震源深さ約13km、などであった。右図に震源とあるのは震央のことである。

被害の発生場所とその理由



地震翌日(6/19)の東京新聞に掲載された主な被害状況

6月20日付け毎日新聞に掲載された境有紀氏(筑波大)の解説図



高槻市 (6月20日の産経新聞)



高槻市 (6月21日の中日新聞)



高槻市 (6月18日の毎日新聞)



茨木市妙徳寺山門 (6月19日の産経新聞)

住宅の被害は殆ど屋根

誠に痛ましい高槻市立寿栄小学校のブロック塀倒壊現場

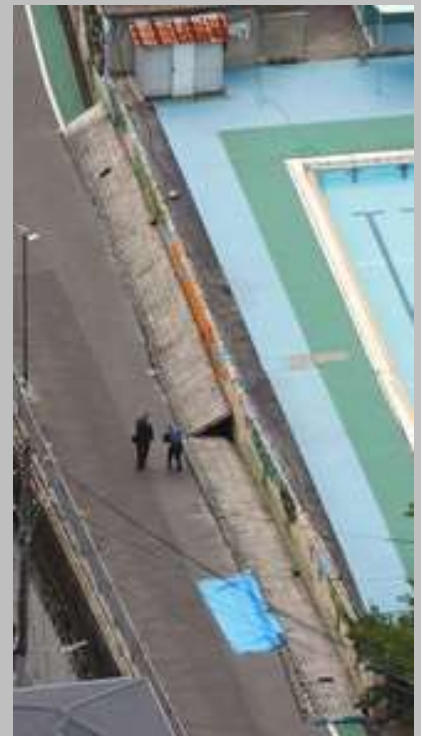


6月19日付け朝日新聞より



高いブロック塀の下が通学路 →

ウェブサイト：防災と災害情報のニュースメディア Hazard Lab より



6月19日付け東京新聞より

通学途中の女兒一人がブロック塀落下の犠牲になった。高いブロック塀が地震時に危険なことは1978年宮城県沖地震の際に経験済みで、建築学会では特別委員会を設置してこの問題に取り組んできていた。それが40年後の今日まで、なぜ一向に改善されないのか。学校防災の一環として、今こそ真剣に考えなければ。



プール側から見た地震前のブロック塀(高槻市教育ネットワーク資料より)



道路側から見た地震前のブロック塀(濱田剛史高槻市長のFacebookより)

学校のプール脇のブロック塀は近隣からの目隠しのために追加工事され、児童らによって壁画が描かれたことも逆に危険を見え難くした？



濱田 剛史
フォローする · 2013年9月24日 ·

今日の昼、寿栄コミュニティセンターに招かれたのですが、その際、隣の寿栄小学校の壁面も見たいとのことでしたので、見に行きましたら、何と可愛い絵が壁面一杯に描かれていました。地域、保護者、学校等が力を合わせて描いた作品とのことです。

下方のお花畑のお花は、児童達の「手形」です。可愛いですよ。

市では、今年度から、「地域と連携した特色ある学校づくり推進事業」を始めましたが、これもその一環。教育内容も含め、特色ある学校づくりが一層進めばと思います。